

財団法人 骨髄移植推進財団 第 20 回 常任理事会議事録

日 時： 平成 23 年 3 月 16 日（水）～3 月 22 日（火） メール審議

出席理事： 理 事 長 ： 正岡 徹

副理事長： 齋藤 英彦、伊藤 雅治

常務理事： 平井 全

常任理事： 加藤 俊一、小寺 良尚、佐々木 利和、鈴木 利治、橋本 明子

事 務 局： 木村成雄（事務局長）、大久保英彦（広報渉外部長）、小瀧美加（移植調整部長）、
坂田薫代（ドナーコーディネート部長）、松菌正人、塚谷典子（以上総務部）

1. 審議・確認事項（敬称略）

3 月 11 日の東北関東大震災の発生を受け、全常任理事の了解のもと、メール審議となることが決定された。

3 月 16 日、審議開始に当たり、事務局より常任理事全員に、以下のメールを送付した。

常任理事 各位

今回のメール審議自体については、公開はいたしません、通常通り、議事録の作成を行い、公開議案についてはホームページに掲載いたします。

なお、上記手続にあわせ、事務局から議事録署名人（案）と前回の議事録（案）をメールにて送付させていただきます。

これについても、上記の手順を経て、事務局からお願いする表決において賛否を記入してください。

議事録署名人の 2 名については、佐々木常任理事と平井常務理事のおふたりをお願いする案となっています。

議事録署名人（案）及び議事録（案）のほか、以下の議案 3 つについて、お諮りさせていただきます。

○第 1 号議案 平成 23 年度事業計画（案）について （資料 1）

○第 2 号議案 平成 23 年度収支予算（案）について （資料 2）

○第 3 号議案 チーム制の見直しに伴う組織規程の改正について （資料 3）

なお、報告事項（資料 4～11）につきましても別途、メールさせていただきます。

以上

以上のメールを送信したあと、審議を開始した。

（1）平成 23 年度事業計画（案）について（資料 1 参照）

標題の審議事項について、メール審議にて提案し、以下のような質疑・応答を行ったあと、全員に異議なく原案通り了承された。

また、平井常務理事より、追加審議として以下の提案があり、一部文言の訂正の提案があった後、全員に異議なく了承された。

(追加審議)

来年度の「事業計画」についてメール審議をいただきありがとうございます。

それにつき、このたびの震災にかんがみ、以下の文を最初の文の後尾「本事業計画における数値目標」の前に追加させていただきたいと思います。

恐縮ですが、ご意見がおありでしたら速やかにご連絡いただければ幸いです。

(追加する文案)

なお、去る3月11日、東北、関東を中心に東北関東大震災が発生した。

被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

財団では、できる限り速い通常のコーディネートへの復帰を目指して、対応を行っている。

しかしながら、今後本事業計画どおりに各事業を遂行できない恐れがある。

その場合においても鋭意患者救命に努めていく。

平井 全

(主な意見)

《橋本》 質問がある。広報活動の中で「かたりべ」活動がありますが、かたりべは非血縁者間での移植経験者を指すのか。

《大久保》 「かたりべ」については、主に移植を受けた患者さん、提供ドナーの方をお願いしている。また、各地でボランティア活動されている方の中には、血縁間で移植を受けた方もいるので、血縁、非血縁の区別はしていない。

《橋本》 「かたりべ」の仲介はとても大変な作業だと思うが、多くの方に参加していただくのはとても効果的な広報活動だと思う。患者コーディネートについて。施設によっては既に CTC(クリニカル・コーディネーター)が活躍しているが、彼らとの「連携」はここで言う「主治医」と同じ意味か。

《小瀧》 主治医と CTC は同じ意味である。

《橋本》 「専門知識の習得」とあるが、具体的にはどのような学習活動をさすことになるか。予算枠はどこに入るか。

《小瀧》 HLAアドバイザーや日本赤十字社の担当者、検査機関の方からHLAに関するレクチャーを受ける。また、諮問委員会の開催時等に、医師からの講義を受けること等を想定している。予算は不要としている。

《橋本》 「つばさフォーラム」では、最前線の血液内科医や専門ナースなどが、骨髄移植や血液がんについて解説しているので、学習活動の一環として利用してほしい。

《小寺》 追加審議の文言について。3行目を「財団では、できる限り速い通常のコーディネートへの復帰並びにその更なる促進を目指して、対応を行っている。」と訂正してはどうか。また、4行目を「しかしながら、今後本事業計画どおりに各事業を遂行できない恐れも否定できないが、その場合においても鋭意患者救命に努めていく。」としてはどうか。

《加藤》 「できる限り速い通常のコーディネートへの復帰」の「速い」は「早い」の意味か。あるいはコーディネート期間の「速さ」を意味しているのであれば、それでよいと思う。

《平井》 ご意見を反映し、「できる限り速い」という言葉を「できる限り早期に」に変更して、主旨を明確にし、以下のように修正し、事業計画書に追加することとしたい。
「なお、去る3月11日、東北、関東を中心に東北関東大震災が発生した。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げたい。財団では、できる限り早期に、円滑なコーディネートが実施できるよう対応を行っている。今後本事業計画どおりに各事業を遂行できない恐れも否定できないが、その場合においても鋭意患者救命に努めていく。」

(2) 平成23年度収支予算(案)について(資料2参照)

標題の審議事項について、メール審議にて提案し、全員に異議なく了承された。

(3) チーム制の見直しに伴う組織規程の改正について(資料3参照)

標題の審議事項について、メール審議にて提案し、以下のような質疑・応答を行い、原案については了承された。しかし、チーム制への移行は人件費の増額を必要不可欠なものとするため、現下の震災の影響も踏まえた来年度の移植件数や、財団への寄付等の財政状況を今しばらく見極める必要があるとし、チーム制への移行およびそのための人事異動について、当初の4月からの実施予定を見送り当面凍結する旨、事務局から提案があり、全員、異議なくこれを了承した。

(主な意見)

《齋藤》 第3号議案のチームの所掌について。この中で総務チームの業務内容には、「募金の事務」がありますが、これと企画・広報チームの「寄付金の募集に関すること」および「各種募金活動の企画、実施に関すること」との重複はないか。

《大久保》 募金の業務については、大きく分けて「寄付金の募集(寄付の依頼、交渉、寄付受け、感謝状作成など)」と「事務処理(入金確認、領収書発行)」のふたつの業務がある。寄付金の募集に関する企画については広報渉外部で行うこととし、事務処理については経理業務との連携もあるので総務部で担当するという案である。

2. 報告事項等

以下の報告事項が報告された。

- (1) コーディネート支援システムのP B S C T対応及び基盤更新における調達について
- (2) コーディネーターブラッシュアップ研修会報告
- (3) ドナー安全委員会報告
- (4) 医療委員会報告
- (5) ボランティア連絡会報告

- (6) PBSCTの状況について
- (7) 調整医師の新規申請・承認の報告
- (8) 募金報告
- (9) プレスリリースについて

以上